

東京国立 博物館 ニュース

第682号
展示と催し物
案内

2-3◎平成19年度の東京国立博物館
特別展予定／国宝室展示予定ほか

4-5◎特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ —天才の実像」
特別展予告「京都五山 禅の文化」展

6◎表慶館「みどりのライオン」

7◎特集陳列「黒田記念館 黒田清輝の作品」
特集陳列「海外の日本美術品の修復」

平常展見どころ案内 2007年4月・5月

8-11◎特集陳列「拓本の世界 槐安居中国碑帖コレクション」/
特集陳列「屏風」／平成19年度新指定国宝・重要文化財/
特集陳列「水滴—動物や野菜をかたどった水入れ」/
国宝 鳥獣人物戯画卷／国宝 白氏詩巻

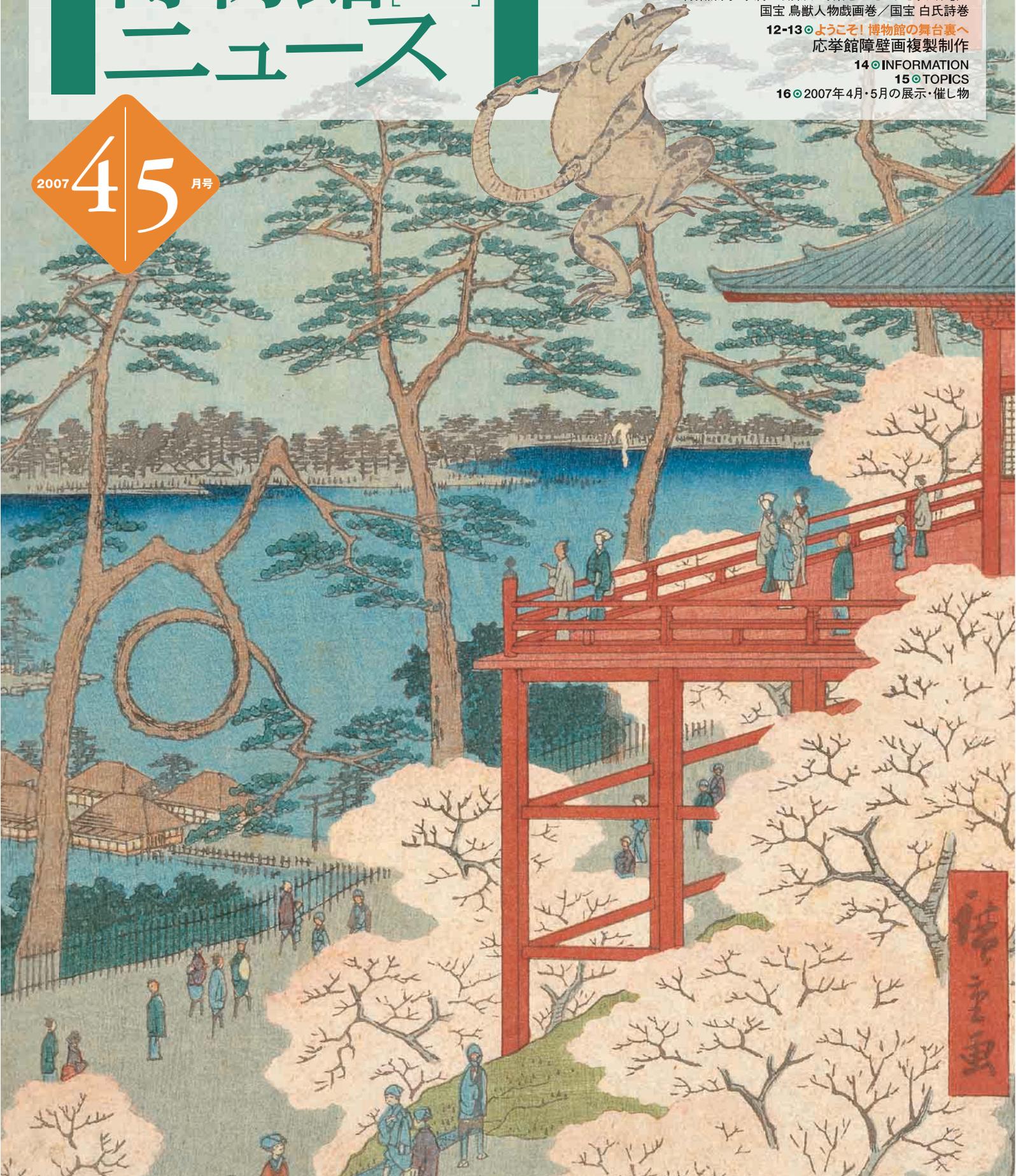
12-13◎ようこそ! 博物館の舞台裏へ
応挙館障壁画複製制作

14◎INFORMATION

15◎TOPICS

16◎2007年4月・5月の展示・催し物

2007 45 月号



平成19年度の 東京国立博物館

平成十九年度の事業展開

東京国立博物館長

東京国立博物館においては、有形文化財の展示とともに、その保存修復に努めてきました。貴重な文化財を後世に伝えていくため、文化財に関する調査研究の成果を生かし、文化財保護の重要性について理解を深める事業を展開してまいります。また、黒田記念館の作品を展示します。

我が国は、大陸からの文化の影響を受けつつ、これを保存し、継承し、その集積の上に独自の文化を形成してきました。この日本文化の特質を世界に向けて積極的に発信していくこととし、そのため、平常展の中に、「東洋から日本へ」という視点を取り入れ、まずは「仏像の道—インドから日本へ」の展示に取り組みます。

歴史・伝統文化の発信拠点として、館員一同全力を尽くしてまいりますので、皆様方のご理解・ご協力を切にお願いいたします。

特別展の予定

2007年3月20日(火)～6月17日(日)

本館特別5室、平成館特別展示室

「レオナルド・ダ・ヴィンチ —天才の実像—

イタリアの至宝「受胎告知」(フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵)を日本で初公開

レオナルド・ダ・ヴィンチ「受胎告知」(部分) 1472-73年 ウフィツィ美術館蔵

Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali



2007年7月31日(火)～

9月9日(日)

平成館特別展示室

足利義満600年御忌記念

「京都五山 禅の文化」展

鎌倉時代から室町時代にかけて、五山を中心に興隆した禅文化をたどる

◎夢窓疎石像(部分) 無等周位筆 自賛
南北朝時代・14世紀 京都・妙智院蔵



2007年10月10日(水)～

12月2日(日)

平成館特別展示室

大徳川展

江戸の武家文化を形成した徳川家のすべてを展望

東照宮御影(四月十七日拜礼)(部分)
江戸時代・慶安元年(1648)
徳川記念財団蔵



2008年1月2日(水)～

2月24日(日)

平成館特別展示室

宮廷のみやび

—近衛家1000年の名宝—

陽明文庫のコレクションに、近衛家旧蔵品を合わせた名宝を一挙公開

御堂関白記(部分) 藤原道長筆
平安時代・寛弘元年～4年(1004-1007)
京都・陽明文庫蔵



本館で新しい特集陳列が始まります

2007年7月27日(金)

オープン予定

本館特別5室

仏像の道—

インドから日本へ

左 如来坐像 パキスタン・ガンダーラ
出土 2世紀
右 ◎如来坐像 飛鳥時代・7世紀



本館2階 国宝室 展示予定

2007年

3月27日(火)～4月22日(日)

●鳥獣人物戯画卷 甲巻 伝僧覚猷筆
平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵



11月6日(火)～12月2日(日)

●観楓図屏風 狩野秀頼筆
室町～安土桃山時代・16世紀



4月24日(火)～6月3日(日)

●白氏詩巻 藤原行成筆
平安時代・寛仁2年(1018)



12月4日(火)～12月27日(木)

●伝藤原光能像
鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵



6月5日(火)～7月1日(日)

●山水屏風
鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵



2008年

1月2日(水)～1月14日(月・祝)

●松林図屏風 長谷川等伯筆
安土桃山時代・16世紀



7月3日(火)～7月29日(日)

●普賢菩薩像
平安時代・12世紀



1月16日(水)～1月27日(日)

●秋冬山水図 雪舟筆
室町時代・15世紀



7月31日(火)～9月9日(日)

●和歌体十種
平安時代・11世紀



1月29日(火)～2月24日(日)

●賢愚経断简(大聖武) 伝聖武天皇筆
奈良時代・8世紀



9月11日(火)～10月8日(月・祝)

●虚空蔵菩薩像
平安時代・12世紀



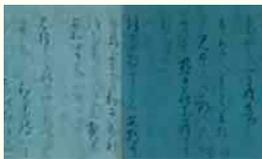
2月26日(火)～3月23日(日)

●善無畏像
平安時代・11世紀 兵庫・一乗寺蔵



10月10日(水)～11月4日(日)

●秋萩帖 伝小野道風筆
平安時代・11～12世紀



3月25日(火)～4月20日(日)

●花下遊楽図屏風 狩野長信筆
安土桃山時代・17世紀



その他の主な作品の展示予定

2007年

4月10日(火)～5月6日(日) ●湖畔 黒田清輝筆 明治30年(1897) 平成館企画展示室

5月8日(火)～6月10日(日) 焔 上村松園筆 大正時代・20世紀 本館18室

6月12日(火)～7月22日(日) 無我 横山大観筆 明治30年(1897) 本館18室

6月12日(火)～9月17日(月・休) ●刀 相州正宗 鎌倉時代・14世紀 本館13室

7月3日(火)～8月5日(日) ●法華経(久能寺経) 平安時代・12世紀 静岡・鉄舟寺蔵 本館3室

7月3日(火)～8月5日(日) ◎一休和尚像 没倫紹等賛 室町・15世紀 岡崎正也氏寄贈 本館3室

8月28日(火)～10月8日(月・祝) ◎秋草図屏風 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀 個人蔵 本館8室

8月28日(火)～10月21日(日) 書状(武蔵鏡の文) 千利休筆 安土桃山時代・天正18年(1590) 松平直亮氏寄贈 本館4室

9月19日(水)～12月16日(日) ●太刀 古備前包平(名物 大包平) 平安時代・12世紀 本館13室

9月19日(水)～10月28日(日) ◎寸庵色紙(秋のつき) 伝紀貫之筆 平安時代・11世紀 浅野長武氏寄贈 本館3室

9月19日(水)～10月28日(日) ◎書状 大休正念筆 鎌倉時代・13世紀 松永安左エ門氏寄贈 本館3室

9月19日(水)～12月16日(日) ◎男山蒔絵硯箱 室町時代・15世紀 本館13室

10月16日(火)～2008年1月20日(日) ◎麗子微笑 岸田劉生筆 大正10年(1921) 本館18室(12月17日～1月1日は閉室)

10月2日(火)～10月28日(日) ●紅白芙蓉図 李迪筆 南宋時代 慶元3年(1197) 東洋館8室

2008年

1月2日(水)～3月23日(日) ◎伝源頼朝坐像 鎌倉時代・13～14世紀 本館11室

1月2日(水)～3月30日(日) ◎色絵月梅図茶壺 仁清 江戸時代・17世紀 本館13室

1月2日(水)～3月30日(日) ●片輪車螺鈿手箱 鎌倉時代・13世紀 本館13室

1月22日(火)～3月2日(日) ◎春畝 浅井忠筆 明治21年(1888) 本館18室

2月5日(火)～3月16日(日) ◎牧馬図屏風 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀 本館7室

3月4日(火)～4月13日(日) ◎弱法師 下村観山筆 大正4年(1915) 本館18室

平成館で天才の「実像」を確かめよう!

「レオナルド・ダ・ヴィンチ —天才の実像」展では、本館でレオナルド創作の原点ともいえる「受胎告知」を展示し、平成館では「天才の実像」部分に焦点をあてた展示がなされます。私たちにとってレオナルドは、すばらしい絵画を残した画家というイメージと、さまざまな分野で先駆的な研究をした万能の科学者という別々のイメージによって理解されています。しかし、それらはお互いに結びついたものとして理解されることはこれまでほとんどありませんでした。しかし実際には、レオナルドの頭の中ではこうした思索すべてが、同じ探求のためのひとつの道の上でおこなわれていました。彼にとって芸術と科学は同じ価値を持ち、一体化していました。これまでの幾多のレオナルド展と今回の展示が異なる最大の点は、まさにこの芸術と科学、そして哲学での探求が常に同じ階層で同時に繰り広げられていたことを示そうとしている点にあります。一見無関係そうに思える科学的考察でも、実は隣に描かれたデッサンと繋がりを持っています。はたしていかなる展示となるのか、会場で実際にご覧下さい。

画家レオナルドと万能の科学者レオナルド。展覧会では、異なる二つのイメージをひとつにつなげる試みが満載。本館第1会場の「受胎告知」とともに、平成館第2会場のマルチメディアを駆使した展示もお楽しみください。

レオナルド! ダ・ヴィンチ —天才の実像

鑑賞ルート

1

本館特別5室でレオナルドの真作「受胎告知」を見る



レオナルド・ダ・ヴィンチ「受胎告知」(1472-73) ウフィツィ美術館蔵
Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali



少年キリスト テラコッタ、
伝レオナルド・ダ・ヴィンチ
ローマ、ガラン・コレクション

レオナルドの彫刻作品?! 「少年キリスト」に注目

もうひとつ、同展には「受胎告知」に次ぐ目玉作品があります。「少年キリスト」と呼ばれる作品で、テラコッタ、つまり粘土を焼いて作られた彫刻作品です。20世紀になって光をあてられるようになった作品で、伝レオナルド作とされ、レオナルドのものである可能性がはやくから指摘されています。そう言われるだけの質の高さを持った作品で、髪の毛や顔つきなどさまざまな点でレオナルドの絵画作品との共通点が見出せます。実際、レオナルドは生前、彫刻を手がけたことがわかっていますし、幼いキリストの彫像を手がけたことも本人が書き残しています。レオナルドの真筆であることが確実な作品(基準作といえます)がある絵画と異なって、彫刻の場合には、比較して確かめるための基準作がありません。ということは、今後もずっとレオナルドの真作であるかどうかの結論は決して得られないわけですが、この機会にどうか実物をご自分の目でご覧いただいて、その謎の作者像を想像なさってはいかがでしょうか。

(池上英洋 本展日本側監修者、恵泉女学園大学助教授)

レオナルド・ダ・ヴィンチ —天才の実像 3月20日(火)~6月17日(日)

主催:「イタリアの春 2007」実行委員会 東京国立博物館 朝日新聞社
NHK NHKプロモーション

特別協賛:外務省 文化庁 イタリア外務省 イタリア文化財・文化活動省

特別後援:イタリア共和国大統領

後援:日立グループ 協力:アリタリア航空 JR東日本 三井住友海上

観覧料:一般1500円(1200円) 大学生1200円(800円)

高校生900円(500円) 小・中学生 無料

※()内は、20名以上の団体料金。※障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

■関連事業

記念講演会

4月21日(土) 13:30~15:00

「レオナルドで知るルネサンス—波乱の生涯と、
激動の時代の魅力」

日本側監修者・恵泉女学園大学助教授 池上英洋

会場：平成館大講堂 定員380名(事前申込制)

*官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・講演日、「返信用表面」に、郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。

*1枚の往復はがきで、1人1イベントのみ申し込み可能。

*応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります。

聴講無料(ただし、特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像」の観覧券が必要)。

申込先：〒102-0083 東京都千代田区麹町3-7半蔵門
村山ビル4F「ダ・ヴィンチ展記念講演会」係

締切：2007年4月4日(水) 必着

レオナルド・ダ・ヴィンチ
誕生日記念コンサート

4月15日(日)

午前の部「受胎告知～レオナルド・ダ・ヴィンチ
時代のマリア賛歌」(10:30開場/11:00開演)

演奏：ヴォーカル・アンサンブル カペラ

午後の部「レオナルド・ダ・ヴィンチ時代の宮廷
音楽」(13:30開場/14:00開演)

演奏：古楽アンサンブル アントネッロ

会場：東京国立博物館 表慶館

各公演100席限定、1000円

*各公演の前売り券は3月10日(土)より、ローソンチケットで販売します(Lコード:30415)。

*全席自由席。特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像」の観覧は別途観覧券が必要となります。

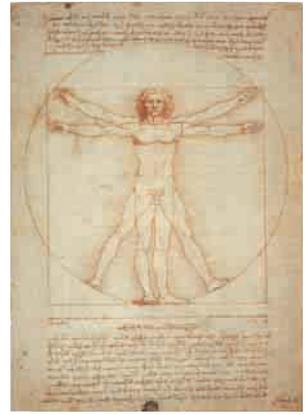
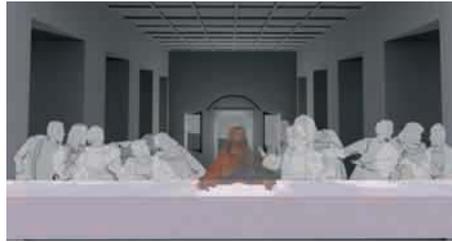
鑑賞ルート

2

平成館で
天才の実像を探る



平成館の会場入り口には、8メートルの翼をひろげた人力飛行機が展示される。手稿をもとに作られた、レオナルドの飛行機だ。鳥のように空を飛ぶこと、それはレオナルドの切なる願いだった



正円、正方形に内接する人体図「ウィトルウィウスの人体図」の謎を解き明かす映像。レオナルドが、この図を描くときに用いた人体のさまざまな構成比を紹介するとともに、正円、正方形と人体の相関が解き明かされる

レオナルドの傑作「最後の晚餐」。この絵に描かれたその瞬間の前に、弟子たちはどんな動きをしていたのか、再現映像で見てみよう。彼らの無意識な動きは、個々の性格を反映したものだと思われる。レオナルドがとらえたその一瞬の重みが実感できるはず

「受胎告知」の背景にも用いられている空気遠近法の効果を視覚化した模型。レオナルドは遠くにあるものを見るという質的な現象を、鮮明さ、明るさ、色合いによる厳密に量的な法則によって絵の中に置き換えようと試みた。たとえば、「5倍離れているものは、5倍青く」といったふう

鑑賞ルート

3

二つの会場で見たものを
再構成し新たなレオナルド像を描いてみる



●破墨山水図(部分) 雪舟筆
室町時代・明応4年(1495)

次回特別展予告
足利義満六百年御忌記念
京都五山禅の文化展
7月31日(火)～9月9日(日)
観光で京都五山すなわち南禅寺、天龍寺などを訪れて拝観できるのは、ほとんど近世の建築、襖絵などで、創建当時の中世の遺品に触れることはなかなかできません。応仁の乱で伽藍の大半が焼失したことも大きな原因ですが、禅僧の肖像、墨蹟、水墨画、詩画軸、仏像、仏画など通常倉庫に保管されているか、参詣者が立ち入り出来ない奥深くに安置されている作品がほとんどだからです。また、専門家による調査が行われていない寺院も少なくありません。このたび、当館は京都五山第二位相国寺の協力を得て、この展覧会を開催することになりました。京都五山と五山に關係の深い寺院の中世の遺品を一堂に集め、中国風の禅文化が、京都にどのように受け容れられ、定

*京都五山：南禅寺を五山之上として以下第一位天龍寺、第二位相国寺、第三位建仁寺、第四位東福寺、第五位万寿寺の六か寺のこと。

この機会にぜひご観覧ください。(浅見龍介)

◎夢窓疎石像 無等周位筆 自賛 南北朝時代 14世紀
京都・妙智院蔵



京都五山禅の文化展

足利義満600年御忌記念
「京都五山 禅の文化」展
7月31日(火)～9月9日(日)

主催：東京国立博物館 日本経済新聞社
特別協力：大本山相国寺
観覧料：未定

出会うの間 建築模型やスライドショー、解説パネルなどで、当館の5つの展示館のほか、資料館、野外展示(黒門、校倉、ジェンナー像、庭園と茶室)などを紹介します。

体験の間 参加型展示を行います。

1. 制作工程模型展示

「仏頭はどうやってつくられたのか?」4月17日(火)～9月30日(日)
東京芸術大学大学院生制作による国宝仏頭(興福寺蔵)の制作工程模型を展示します。むずかしい金銅製仏像のつくり方が一目でわかります。

2. ハンズオン体験コーナー

「銅鐸の響き」4月17日(火)～9月30日(日)
弥生時代の袈裟繡文銅鐸のレプリカを展示します。どんな音色か実際にたたいてみてください。

「コピーの元祖「拓本」体験」4月17日(火)～7月1日(日)
3館連携企画展「拓本の世界」(東洋館第8室)関連企画。展示作品を題材にした拓本体験に自由に参加できます。

「屏風って、なに?」4月24日(火)～6月3日(日)
特集陳列「屏風」(本館7・8室)関連企画。ミニ屏風で屏風の構造や使い方を体験できます。

「昔のゲームを楽しもう」7月3日(火)～9月24日(月・休)
親子のギャラリー「博物館のおもちゃ箱」(本館14室)関連企画。江戸時代のすごろく盤など昔のゲームで遊んでみよう。

創作の間 ワークショップなどを行います。

「親子で拓本に挑戦」

5月19日(土)、6月10日(日) いずれも13:00～17:00
「拓本の世界」(東洋館第8室)を見たあと、江戸時代の鏡を使って拓本づくりに挑戦します。

定員各回10組(事前申込制・申込多数の場合は抽選)
小中学生と同伴の大人対象 無料(ただし入館料が必要です)
申込方法: 1.参加者全員の氏名とお子さんの学年、2.住所、3.電話番号(FAX番号)をご記入の上、往復ハガキ(返信面にも記入)・電子メール・FAXにてお申し込みください。

申込先: 〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育普及室「拓本ワークショップ」係、edu@tnm.jp、03-3822-3010 (FAX)
申込締切: 平成19年5月7日(月) 必着

対話の間 各種講座・レクチャーなどを行います。

*日程等詳細は、下記の平成19年度上半期の講座・講演会のお知らせ、ならびに巻末の展示・催し物カレンダーをご覧ください。

探求の間 教育普及関連の図書や先生方向けの資料などを閲覧することができます。

表慶館が、東京国立博物館における教育普及事業を専門に行う場所として、今までにない機能をそなえた教育普及センターとして生まれ変わります。「みどりのライオン」はそのニックネームで、表慶館の入り口に置かれているブロンズ製の二頭のライオンに由来しています。「出会うの間」「体験の間」「創作の間」「対話の間」「探求の間」と名づけられた五

つの部屋で、当館の展示品や建築物の紹介、特集陳列や親子のギャラリーなどの展示内容にあわせた参加型の体験コーナー、制作工程模型による技法紹介、ワークショップ、レクチャーなどを行います。日本・東洋の美術や考古、そして博物館そのものをさまざまな切り口から楽しみ、身近に感じてもらうことを目的としています。子どもをはじめシニ

ア世代、外国のお客様、障害をお持ちの方、博物館に来られた皆様にむけて、当館を身近に感じていただけるような工夫を凝らしています。東京国立博物館の展示館では最も古い歴史を持つ明治の洋風建築・表慶館の美しい空間の中で、「みどりのライオン」に導かれ、東博をもっと楽しんでみてください。



表慶館

みどりのライオン

見て、聞いて、触って、感じる教育普及スペース
2007年4月17日オープン

平成19年度上半期の講座・講演会のお知らせ

月例講演会

毎月1回、当館の展示・研究員の研究テーマ等に関連した講演会を開催します。

4月7日(土)13:30～15:00

「東京国立博物館と桜」 国立民族学博物館教授 佐々木利和

5月19日(土)13:30～15:00

国際博物館の日記念「世界の文化遺産:その保存と活用」 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授 斎藤英俊

6月2日(土)13:30～15:00

「拓本入門—中国碑帖の魅力—」 列品室長 富田淳

7月21日(土)13:30～15:00

「敦煌出土裂と日本の古代染織」 上席研究員 澤田むつ代

8月11日(土)13:30～15:00

「《悲観観音》の生命誌」 東京文化財研究所美術部主任研究員 塩谷純

9月29日(土)13:30～15:00

「美麗なる仏画—虚空蔵菩薩像」 東北大学大学院文学研究科教授 泉武夫
会場:平成館大講堂 定員:380名(当日先着) 聴講無料(ただし入館料が必要です)

テーマ講演会

鎌倉時代後半から室町時代にかけて京都五山を中心に花開いた禅文化をテーマとして、その特色について美術と歴史の両面から探る4回連続の講演会です。

テーマ「京都五山の文化」全4回

6月9日(土)13:30～15:00

第1回「五山派の彫刻」 出版企画室長 浅見龍介

6月30日(土)13:30～15:00

第2回「京都五山の絵画」 特別展室長 救仁郷秀明

7月14日(土)13:30～15:00

第3回「室町幕府外交と京都五山」 北海道大学大学院文学研究科准教授 橋本雄

7月28日(土)13:30～15:00

第4回「五山僧と学芸」 情報管理室長 田良島哲

会場:平成館大講堂 定員:380名(当日先着) 聴講無料(ただし入館料が必要です)

イブニング・レクチャー

当館と三井記念美術館・台東区立書道博物館で行われる拓本の展覧会をテーマに、3館の展示担当者による座談会を開催します。

5月11日(金)18:00～19:00

「拓本の世界」 三井記念美術館学芸員 樋口一貴、台東区立書道博物館研究員 鍋島稲子、東京国立博物館列品室長 富田淳

会場:表慶館「対話の間」 定員:80名(事前申し込み制) 聴講無料(ただし入館料が必要です)

申込方法:官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください。*1枚のはがきで、1人のみ申し込み可能。*応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります。

申込先:〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育講座室「拓本レクチャー」係

申込締切:平成19年4月23日(月) 必着

黒田清輝の代表作を一挙公開
 特集陳列「黒田記念館」

4月10日(火)～5月6日(日)
 平成館企画展示室

この度、黒田記念館の作品を、平成館一階企画展示室にて展示します。洋画家黒田清輝の代表作であり、もつともひろく親しまれている「湖畔」(重要文化財)をはじめ、油彩画十四点と素描八点を展示します。内容は、フランス留学時代から晩年までの作品で構成されています。リベラルな思想に裏づけられた、外光と色彩を意識した新しい視覚表現によって、明治中期の日本の洋画界に革新をもたらした黒田清輝の芸術のエッセンスを紹介するものです。黒田記念館は、当博物館と東京芸術大学の間に位置し、一九二八年に竣工し、現在では国の登録文化財となっています。この施設は、一九二四年に五十八歳で没した黒田清輝の、



◎湖畔 黒田清輝筆 明治30年(1897)

黒田清輝の作品」



栗拾い 黒田清輝筆 大正6年(1917)

「美術奨励」に役立ててほしいという遺志にもとづき、作品と遺産の一部が国に寄贈されたことから創設されたもので、その二年後に帝国美術院附属美術研究所として開所となりました。これは、東京文化財研究所の母体ともなった機関で、また当初より施設内の二階には寄贈された作品を陳列し、その画業を顕彰するための「黒田記念室」が設けられていました。現在は、毎週木、土曜日の午後一時から四時まで一般公開していますが、今回、これまで以上に多くの方々にご覧いただくために当博物館の特集陳列として、「湖畔」及び、留学帰国後、黒田が意欲的に取り組んだ大作「昔語り」(完成作は、一九四五年に消失)の下絵四点、「自画像」、「栗拾い」などの代表作を展示いたしますので、どうぞご覧下さい。

(東京文化財研究所 田中淳)

独立行政法人国立博物館と
 独立行政法人文化財研究所の
 統合にあたり
 二つの特集陳列を行います

日本の美を後世に伝えるために
 特集陳列

「海外の日本」

美術品の修復」

5月15日(火)～27日(日)
 平成館企画展示室

在外日本古美術品保存修復事業は、一九九一年に文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所が共同で、アメリカ合衆国の美術館や博物館が所蔵する日本絵画の修復に協力することを目的として始められました。その後、調査範囲をヨーロッパの諸国へ拡大し、さらに絵画のほか漆器や武器、武具なども調査対象に加えました。現在までに東京文化財研究所が修復協力した美術館や博物館は四十四館、そして修復した作品は三三三三点以上ついています。海外で収蔵されている日本美術品は、国内の美術品と比較して損傷の激しい作品が多く、さらに日本の材料と技術で作られているために海外の技術で修復することが難しいため、日本へ作品を安全に輸送して国内の工房に持ち込み、専門の修復家によって修理を行っています。



見立反魂香図(部分)
 歌川豊春筆 江戸時代・18世紀
 プラハ国立美術館別館蔵

源平合戦図屏風(部分)
 江戸時代・17世紀 オーストリア東洋美術館蔵



ます。二〇〇六年度、この事業で修復の完了した絵画「源平合戦図屏風」他四点、工芸品「山水人物時絵筆筒」を展示します。ご覧いただければ幸いです。

(東京文化財研究所 修復技術部)

「そのほかの展示作品」

- 風流陣図屏風 江戸時代・17世紀
 プラハ国立美術館アジア館蔵
- 洛中洛外図屏風 江戸時代・17世紀
 ロイヤル・オンタリオ美術館蔵
- 保元物語図屏風 江戸時代・17世紀
 ナーブルステック博物館蔵
- 見立反魂香図 江戸時代・18世紀
 プラハ国立美術館別館蔵

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

群玉堂米帖

三つの展覧会をめぐる拓本ツアーで楽しむ宋拓の名品

4月17日(火)～7月1日(日) 東洋館第8室
特集陳列「拓本の世界 槐安居中国碑帖コレクション」より



群玉堂米帖 紙本墨拓 原本米芾筆
南宋時代・12～13世紀 高島菊次郎氏寄贈
余白には清時代の翁方綱や李宗瀚の跋文が書き込まれている

大正から昭和の初期にかけて、日本では数寄者がこぞってお茶道具を購入するなか、中国の文化に関心をもち、中国書画の収集に心を砕いた人物がいました。その一人が高島菊次郎氏(一八七五～一九六九)です。高島氏は実業家として活躍される一方、漢学、語学に造詣が深く、中国の書画や拓本を熱心に収集されました。そのコレクションは、戦前から各種の刊行物に掲載され内外に喧伝されましたが、東洋館の開館を控えた一九六五年、氏はご愛蔵の書画を当館に寄贈されました。三百余件にのぼるそのコレクションは、常に東洋館の陳列を支え、今なお多くの愛好者・研究者の渇を癒し、貴重な資料を提供しています。

手・向若水に刻させた群玉堂帖です。全十巻あったと伝えられますが、完全なセットの形はすでに見ることができません。本冊は米芾が自らの学書の経歴を、拳大の大きさと揮毫した作品を収める第八巻。そのためこの冊を群玉堂米帖とも称します。米芾の代表作である虹景詩巻の躍動感あふれる筆づかいを彷彿とさせる、見事な出来栄となっています。

このたび三井記念美術館、台東区立書道博物館と当館の三館では、それぞれの館で所蔵する碑帖の優品を同じ時期に展観いたします。宋代の墨は、後世とは異なる青みがかった上品な味わいで、拓本の採り方にも、烏金拓、蟬翼拓、隔麻拓など、さまざまな工夫が凝らされました。墨色の微妙な味わいや、切れ味の鋭い立体感あふれる線質など、意匠を凝らした拓本には、単なる印刷の域を超えて、肉筆とは異なる独特の世界が広がっているのです。旧拓の醸し出す玄妙な墨調と、金石の気を存分にお楽しみください。(富田淳)

拓本の世界 3館所蔵善本碑帖展

東京国立博物館と、三井記念美術館(日本橋)、台東区書道博物館(根岸)で拓本の名品展を同時開催します。唐・宋時代の貴重な拓本を所蔵する3館のコレクションをあわせると、国内優品の大多数をカバーするため、この企画は国内最大級の拓本展となります。展示作品は3館あわせておよそ200点。会期中は各館の観覧券の半券の提示で他の館の入館料の割引が受けられます。どうぞ、この機会に3館をめぐる拓本鑑賞ツアーをお楽しみください。

三井記念美術館
中国五千年 漢字の姿 [フォルム] 三井聴水閣拓本名帖の全貌
4月21日(土)～7月1日(日)

東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号 三井本館7階
東京メトロ銀座線「三越前」駅徒歩1分、半蔵門線「三越前」徒歩3分
銀座線・東西線「日本橋」駅徒歩4分メトロリンク「三井記念美術館前」
お問い合わせ TEL03-5777-8600 ハローダイヤル
URL <http://www.mitsui-museum.jp/>

台東区立書道博物館 中村不折碑帖コレクション
4月17日(火)～7月1日(日)
台東区根岸2丁目10番4号 JR鶯谷駅(北口)徒歩5分
お問い合わせ TEL03-3872-2645
URL <http://www.taitocity.net/taito/shodou/>



本館2室 国宝室

自作ストーリーで楽しむ

国宝 鳥獣人物戯画卷

3月27日(火)～4月22日(日)

甲・乙・丙・丁の四巻のうち、教科書などにも採られてよく知られ、もともと人気が高いのがこの甲巻です。兎と猿と蛙が中心ですが、ほかにも狐・鹿・猫・鼠・貂などが登場します。擬人化された動物たちがくりひろげるのは、水遊びや賭弓や田楽、相撲や法会などの場面です。実際にはあり得ない動物たちの動きを違和感なく描き出す自在な筆さばきのもとより、墨だけなのに秋草の色まで感じさせる画家の技量はすばらしく、いくら見ても飽きることはありません。自分だけのストーリーを創作しながら鑑賞してみてはいかがでしょうか。(松原茂)



●鳥獣人物戯画卷 甲巻(部分)
平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵
平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵
扇を持った公卿気取りの猫の様子を、貴族女性風の兎の陰からおそるおそる窺う2匹の鼠。こんなところにも小さなドラマが……

本館2室 国宝室

和様の完成形

国宝 白氏詩巻

藤原行成筆

4月24日(火)～6月3日(日)



●白氏詩巻(部分) 藤原行成筆 平安時代・寛仁2年(1018)
すっきりしてあか抜けた新鮮な書風

平安時代の宮廷貴族は、教養として漢詩や和歌の素養、文字を巧みに書くことなどが求められていました。漢詩の中では、とりわけ唐の詩人・白居易の詩集『白氏文集』が平易で巧妙、流麗な音調などから大いにもてはやされました。その詩篇を選び、美しい染紙の料紙に書写したのが、この作品です。三跡の一人として知られる藤原行成四十七歳の自筆です。日本風の書法である和様の書を完成させたことでも知られます。その書風は、すっきりしてあか抜けた気品の高い書で、今でも実に新鮮な感覚を伝えています。(鳥谷弘幸)

本館4室 茶の湯の美術

薩摩茶人の優品

黒釉文琳茶入

1月16日(火)～5月6日(日)

茶入では唐物(中国製)が最高であり、和物(日本製)では瀬戸



が高く評価されてきました。が、江戸時代前期には新たに茶入を焼く窯がいくつか生れました。九州では高取の茶入が名高いですが、それとともに独特の茶入を作り上げた窯に薩摩があります。薩摩では桃山様式の力強い造形の茶入も作られていましたが、この茶入では古典とも言うべき唐物茶入の

形から文琳形を採用しています。釉薬を二重に掛け、そこにさらに白釉が現れて薩摩茶入を代表する優品となりました。(伊藤嘉章)

黒釉文琳茶入 銘望月 薩摩
江戸時代・18世紀 松永安左衛門氏寄贈
文琳とはリンゴのこと。なまはごとと思わず納得

法隆寺宝物館第4室 香木・計量器

聖徳太子のモノサシ

重文 紅牙撥鏝尺

5月15日(火)～7月8日(日)



●紅牙撥鏝尺 奈良時代・8世紀
右が表。幅2.2cm。厚さは0.8mm

赤く染めた象牙に、撥ね彫りの技法で文様を表したモノサシです。表側は上を三区画に分けて、宝相華文と鴛鴦を配し、裏側は鴛鴦と草花文を交互に表しています。撥鏝は奈良時代に流行し、正倉院宝物中にもこれと同様の紺牙、緑牙、紅牙の尺や、碁石、琵琶の撥、刀子などが伝わっています。法隆寺

平成館考古展示室

朝鮮半島とのつながりを示す土器

家形容器

常設展示



古墳時代の日本列島は、朝鮮半島や中国との深いつながりがありました。今回紹介するのは切妻屋根の四柱造りの家であり、妻側には棟持ち柱の表現、壁には三角文をモチーフとした模様が描かれています。これと同様の資料は朝鮮半島南部で出土例があります。屋根の片面には土器の口縁部が取り付けられ、反対側の壁には液体を注ぐための注ぎ口である小円孔があります。同時に出土したものを含め、須恵器か陶質土器か判断の難しいものです

家形容器 和歌山市六十谷 大同寺古墳出土
古墳時代(中期)5世紀
須恵器か朝鮮半島南部の陶質土器か



東京国立博物館庭園内応挙館

博物館やお寺で襖絵を見ながら、この作品、完成した当時はどんな風だったんだろう？と想像してみたことはありませんか。博物館や美術館としてもみなさんに作品の世界を楽しんでいただきたい反面、後々の世代まで伝えたいという使命から、美術作品をあるがままの姿で皆様にご紹介することが難しい、ということが常に課題となってきました。

庭園のお茶室・応挙館の歴史

東京国立博物館には、「庭園に「応挙館」という江戸時代に造られた建物があります。現在はお茶室として



写真2 応挙館 一之間(作業前)

貸し出しているほか、ボランティアによる庭園茶室ツアーなどでもおなじみです(写真2)。この建物、もともとは尾張国、現在の愛知県海部郡大治町馬島の明眼院という天台宗のお寺の書院でした。古くから、眼病治療で知られたお寺です。伝承によれば、円山応挙(一七三三〜一七九五)が目の治療のためにお寺に滞在し、お礼に襖絵、床貼付絵、杉戸絵など、あわせて五十面以上の障壁画を描いたといわれています。天明四年(一七八四)のことです。このうち「朝顔狗子図杉戸」(写真3)は、かわいらしい子犬の絵でよく知られ



写真3 朝顔狗子図杉戸(部分) 円山応挙筆 天明4年(1784)



第15回

応挙の絵画空間がよみがえる

応挙館障壁画複製制作

2月8日、東博庭園の応挙館では、障壁画複製制作の記者発表会が行われました。生まれ変わった襖絵に記者の皆さんも大注目。応挙館って？そこで一体何が？今回はこの複製事業についてご紹介します。

ており、昨年は郵便切手の図案にも採用されました。戌年のお正月に東博の展示室でご覧になった方もおられることでしょう。床の間の違棚にある天袋の小襖四枚は弟子の山本守礼(一七五一〜九〇)が描きました。

さて愛知のお寺の建物がなぜ東博にあるのか。明治時代、政府によって「神仏分離令」が出されたことにより全国的に「廃仏毀釈」という運動が巻き起こった時期がありました。明治政府は神道を国の宗教としたため、各地で仏像や寺院が破壊され、お寺が没落するなどの状況が起

きたのです。明眼院でも建物を手放すことになりました。

これを買収したのが当時の三井財閥の総帥、美術品コレクターとしてもよく知られる益田孝(鈍翁・一八四八〜一九三八)です。彼は建物を自邸(現在の東京都品川区)に移築し、コレクター仲間と茶会などを開きました。大正八年(一九一九)には、この建物で「佐竹本三十六歌仙絵巻」が切り離され、それぞれの歌仙の絵が別々のコレクターの手に渡ったことをご存知の方もいらっしゃると思います(写真4)。その後昭和八年(一九三三)に鈍翁は建物を東博に寄贈し、以来この建物は応挙の絵から「応挙館」と呼ばれることになりました。



写真4 重文 佐竹本三十六歌仙絵巻断簡(住吉明神) 鎌倉時代・13世紀 松永安左衛門氏寄贈

描かれてから二百年以上経つ応挙館の障壁画は、移動が容易な襖絵や杉戸絵は取り外して収蔵庫に保管し、修理などをしながら折に触れて展示室で公開してきました。床貼付絵や小襖はそのまま残されていますが、最近はお茶会やイベントなどで応挙館を利用する機会も増え、保存上の問題が出てきました。



写真5 梅図襖 円山応挙筆 天明4年(1784)



写真1 記者発表会。複製前の画像と比べながら説明する大日本印刷・匠プロジェクトリーダーの澤田努さん

絵画空間をよみがえらせるために プロジェクト発足

そこで東博では、障壁画のうち水墨画を複製することで応挙館の本来の姿を再現し、みなさんに公開しようとして、二〇〇五年に複製画制作に関する研究チームを立ち上げました。そして、大日本印刷株式会社との協力を受け、最新のデジタル画像処理技術と作品の独特の風合いを再現する印刷技法や材料を駆使した複製画制作事業を開始したのです。

応挙が制作当初に意図した水墨画の絵画空間をよみがえらせよう



写真6 特殊なデジタルアーカイブスキャナ



写真7 記者発表会にて、カラーチャートを前に説明をする大日本印刷理事・村中豊さん。右端は匠プロジェクト・今井将樹さん

というこのプロジェクト、しかし前提となつたのは、障壁画を現状のまま複製するという事です。具体的に

と、紙の破れなどによって絵が欠けてしまっている部分などはあえて足さないこと、また、襖絵は紙を何枚も継いで大きな紙を作る必要がありすが、この紙継ぎも原画と同じ部分で行うこと、などでした。作品の修理・修復も、通常はこのような原則のもとに行われます。応挙館の襖絵はもともと白い紙の上で墨の濃淡を巧みに使い分けて立体的な絵画空間を描き出した繊細なものでしたが、紫外線を浴びたことによる「ヤケ」や、その他の汚れなどにより傷みが激しく、さらにその程度には一枚の襖の中でさえもムラがあり、鑑賞性が損なわれてしまっていました。しかし、修理・修復では紙の汚れをある程度洗浄することはできません(写真5)。ここで活躍し



写真8 コンピューターで「バーチャル洗浄」

たのが、大日本印刷のデジタル技術です。

バーチャル洗浄！最先端の技術によって生まれ変わった水墨画

まず襖絵を複製するためにデジタルスキャニングが行われました(写真6)。応挙館の障壁画、特に床貼付絵はとても大きいため、特殊なスキャナが応挙館に設置され、データの取り込みが行われました。スキャナを使うと、フィルムカメラで複写した場合と比べ、レンズ収差による画像のゆがみを抑えることができます。

襖絵のうち紙の白さを最も保っていたのは、梅図襖のなかでも開け放してあったことよって外気にふれることが少なかった部分でした。全体のベースの色は、この部分を基準に決めることになりました。地の色をこの色に合わせていく、という



写真9 山水人物図小襖(部分) 山本守礼筆 天明4年(1784)

とても簡単なことに聞こえますが、実はこの作業によって、応挙の墨色のもっとも微妙な部分が、汚れと一緒に取り去られてしまう危険が生じてしまったのです。ここで微妙な筆触、墨の濃淡に対応するために特別なカラーチャート(写真7)が開発され、これをもとにカラーマネジメントが行われました。どれが汚れて、どれが描かれた墨色なのか、東博の研究者と大日本印刷の担当者で綿密に意見を交わしながら作業が進められました。コンピューター上でヤケ・汚れの色だけを慎重に取り除いていく「バーチャル洗浄」などを駆使した「標準複製」と呼ばれる画像処理が行われ(写真8)、水墨画の柔らかな風合いを再現するために、複製画はインクを紙に噴射するインクジェットをベースにした方式で印刷されました。

一方、応挙の弟子、守礼が描いた小襖(写真9)は、裏に金箔をあてた絹地に水墨画を描いているため、紙の水墨画と同じ印刷では微妙な質感や色の再現が難しく、作業にはさらなる困難を伴いました。まず、金

地が光を反射するので、光を当てて画像を取り込むスキャニングは使えず、四枚の小襖は8×10フィルムカメラ撮影によって複製されました。さらに、印刷に使った和紙は伝統工芸師が金箔を貼ったものでしたが、金箔はインクを弾いてしまったため特殊なインキと表面加工を使い、さらにインキを紙にしっかりと載せるオフセット方式をベースにした印刷技術が

採用されました。

こうして応挙館の水墨画五十面のうち四十一面が複製され、応挙館に設置されました。一之間には松竹梅が織り成す空間が、二之間には周囲を雁の群れが戯れる空間が、鮮やかによみがえりました(写真10)。大日本印刷で複製制作の指揮にあたった村中豊さんは、梅の立体感に思わず息をのんだといいます。

二之間には、奥に一本、広葉樹が描かれています。この木は木犀(もくせい)であるといわれ、またの名を桂(かき)といい、月をあらわすとされています。そんな謎解きも楽しい応挙館の障壁画、この木の最上部も含めた九面はいまだ作業中。修理も数年をかけて行われます。すべてが完成した姿でみなさんにお目見えするのは、今年の秋になりそうです。百聞は一見に如かず。どうぞお楽しみに。(遠藤楽子)



写真10 梅図襖 複製画

INFORMATION

コンサート開催のお知らせ

ローナン・マギル ピアノコンサート

#ユリノキの緑薫る博物館で、英国の誇る俊英による
ピアノ名曲コンサートをお楽しみください#

日時 6月23日(土) 開場 14:30 開演 15:00
会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 ローナン・マギル(ピアノ)
曲目 ソナタ14番「月光」(ベートーベン)、ノクターン(ショパン)ほか
料金 4,500円 全席自由
※友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,000円
※コンサート料金で、当日の平常展をご観覧いただけます。
主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット

<チケットのお求め方法>

- 当館正門観覧券売場でのチケット販売
受付 開館日の9:30~閉館30分前(月曜休館)
- 電話予約販売
申込先 東京国立博物館 イベント担当 TEL03-3821-9270
受付時間 月曜日~金曜日9:30~17:00(土日祝日は除く)
引換方法 コンサート当日、当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡しします。

※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。
※お車のご来館はご遠慮ください。

特別講演会のお知らせ

日時 4月22日(日) 13:30~15:00
会場 東京国立博物館 平成館大講堂
演題 「美と知の時代」を支えるミュージアム
~誕生、変遷、そして「開かれた場」へ~
講師 井関利明(慶應義塾大学名誉教授)
主催 東京国立博物館 後援 (株)乃村工藝社
定員 250名(事前申込制・先着順)
※聴講料無料(ただし当日の入館料は必要です)
申込先 東京国立博物館 イベント担当 TEL03-3821-9270
3月20日(火)9:30から電話予約開始
月~金曜日9:30~17:00(土日祝日は除く)受付
定員になり次第、受付終了

無料観覧日のお知らせ

5月18日(金)は国際博物館の日のため平常展は無料となります。
ぜひこの機会にご家族、ご友人と誘い合わせてお出かけください。

ゴールデンウィーク期間中の開館時間

4月27日(金)~5月6日(日)のゴールデンウィーク期間は連日20時まで開館
(入館は閉館の30分前まで)。また、4月30日(月・休)、5月1日(火)も開館します。

臨時休館のお知らせ

6月26日(火)は電気設備点検のため臨時休館します。

プレゼントのお知らせ

◆レオナルド・ダ・ヴィンチ 一天才の実像 ミウラ折ポスターと招待券プレゼント

本誌4ページで紹介した「レオナルド・ダ・ヴィンチ 一天才の実像」展の
ミウラ折ポスターと招待券を抽選で5名様にプレゼントします。
締め切りは4月10日。



◆「京都五山 禅の文化」展 チケットプレゼント

本誌5ページで紹介した「京都五山 禅の文化」展の招待券を抽選で10組20
名様にプレゼントします。締め切りは6月10日。

※プレゼントの応募方法

はがきに、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、希望賞品(ダ・ヴィンチ
展ポスターか京都五山展招待券のいずれか一方)、ならびにこの号でいちばん
面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって
替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
広報室「ニュース4・5月号」プレゼント係

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、
当館を幅広くご支援いただいております。賛助
会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修
理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあ
てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご
賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申
し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)
有効。賛助会員には、特別会員と維持会員と
の2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

*お問い合わせ

東京国立博物館営業開発部 賛助会担当
TEL03-3822-1111(代)

特別会員
日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
三菱商事株式会社 様
トヨタ輸送株式会社 様

維持会員
三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
京菓匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
藪内 匠人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様

東京国立博物館賛助会員 2007年2月22日現在

吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保のり子 様
櫛田 良豊 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 栄樹 様
池田 孝一 様
木村 剛様
観世 あすか 様
コクヨファニチャー株式会社 様
星 埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術数本 様
飯岡 雄一 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
高木 美華子 様
曉島工業株式会社 様
山岡 ヨウ子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
山田 泰子 様
原 桃介 様
近代書道研究所 様
田村 久雄 様
日本畜産興業株式会社 様
有限会社 アートオフィスJC 様
高橋 徹 様
栄田 陸子 様
絹村 安代 様
高橋 良守 様
白井 生三 様
津久井 秀郎 様
藤倉 光夫 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
池田 慶子 様
株式会社 東京書芸館 様
青山 千代 様
藤崎 英喜 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
町田 昇 様
シズン時計株式会社 様
野澤 智子 様
有賀 浩治 様
吉田 幸弘 様

(ほか37名3社、順不同)

TOPICS



◎西湖春景図・銭塘観潮図屏風(西湖春景図屏風部分) 池大雅筆 江戸時代・18世紀

◆フィラデルフィア美術館で「池大雅・徳山玉瀾」展

このたび、一三〇年の歴史を誇り、アメリカでも有数の大美術館であるフィラデルフィア美術館で、「池大雅・徳山玉瀾展」が開催されます。大雅は、十八世紀の日本で独自の発展をした「南画」というスタイルを大成させた画家として知られています。大雅は、中国絵画をふまえながら、伝統的な日本の絵画だけでなく、西洋の表現方法も取り入れて、水墨画の表現世界を新たに切り開きました。そして妻の徳山玉瀾も高名な画家でありました。

この展覧会は、「国宝」楼閣山水図屏風をはじめ、日本国内の美術館博物館、寺院、個人が所蔵する名品の数々が海を渡り、アメリカ国内からも選りすぐりの作品が集められ、大雅と玉瀾の画業が一望できるものとなっております。日本国内でも、これほどの規模と優れた作品が一堂に会したことは未だかつてありません。これらの日本美術の粋が、多くの方々の方に強く響き、深い感銘をもたらすことになるでしょう。

(松嶋雅人)

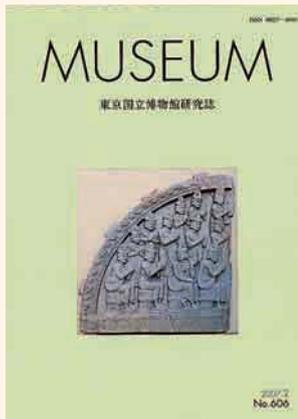
「池大雅・徳山玉瀾」展

フィラデルフィア美術館(アメリカ合衆国)
特別協力: 東京国立博物館
5月1日(火)~7月22日(日)
Ike Taiga and Tokuyama Gyokuran: Japanese Masters of the Brush

◆MUSEUM 606号

(平成19年2月15日発行)の掲載論文

- ①「ザールデリー遺跡出土石彫群の復元的考察」小泉恵英(当館平常展室主任研究員)
- ②「題跋の編纂と池大雅筆(水流帖)の成立について」丸山猶計(当館特別展室研究員)
- ③「飯塚桃葉作 塩山時絵細大刀拵(東京国立博物館蔵)とその文献史料」大橋俊雄(徳島県立博物館主任学芸員)



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特別展覧会「金峯山埋経一千年記念 藤原道長 極めた栄華・願った浄土」
4月24日(火)~5月27日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別展「神仏習合—くかみとくほとけ—が織りなす信仰と美—」
4月7日(土)~5月27日(日)

〈九州国立博物館〉

特別展「未来への贈りもの—中国泰山石経と浄土教美術—」
4月10日(火)~6月10日(日)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
口座番号00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は5月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、2007年3月20日から12月の特別展開催期間中の金曜日と2007年4月27日~5月6日は20:00まで、2007年3月20日~9月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)。2007年6月25日、26日は臨時休館。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

* ()内は20名以上の団体料金

* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

* 満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

* 講座・講演会、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みの際にご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

1 SUN	レオナルド・ダ・ヴィンチ — 天才の実像 時間延長(18:00まで) 11:30, 13:30 14:00 14:30
2 MON	休館日
3 TUE	列品解説「加耶最強国の面影」14:00 東洋館第10室 11:30, 13:30
4 WED	11:30, 13:30 14:00 14:30
5 THU	11:30, 13:30
6 FRI	夜間開館(20:00まで) 11:30, 13:30 15:00
7 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「東京国立博物館と桜」13:30 平成館大講堂 11:30, 13:30 13:30 15:00
8 SUN	時間延長(18:00まで) 11:30, 13:30 14:00
9 MON	休館日
10 TUE	列品解説「古墳時代の海外交流」14:00 平成館考古展示室
11 WED	14:30 14:00
12 THU	14:00 14:30
13 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
14 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
15 SUN	春の庭園開放 時間延長(18:00まで) レオナルド・ダ・ヴィンチ誕生日記念コンサート 11:00, 14:00 表慶館*1 14:30
16 MON	休館日
17 TUE	コピーの元祖「拓本」体験 列品解説「水滴について」14:00 本館14室
18 WED	14:00 14:30
19 THU	14:00
20 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
21 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「レオナルドで知るルネサンス— 波乱の生涯と、激動の時代の魅力」 13:30 平成館大講堂*2 13:30 14:00 15:00
22 SUN	特別講演会「美と知の時代」を支えるミュージアム」13:30 平成館大講堂*3 時間延長(18:00まで) 14:00
23 MON	休館日
24 TUE	屏風って、なに? 列品解説「日本出土の中国陶磁」14:00 平成館考古展示室
25 WED	14:00 14:30 14:00
26 THU	14:00 14:30
27 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00
28 SAT	夜間開館(20:00まで) 14:00
29 SUN	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
30 MON	夜間開館(20:00まで)

1 TUE	夜間開館(20:00まで)
2 WED	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
3 THU	夜間開館(20:00まで) 14:00
4 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
5 SAT	夜間開館(20:00まで) 13:30 14:00 15:00
6 SUN	夜間開館(20:00まで) 14:00
7 MON	休館日
8 TUE	
9 WED	14:30 14:00
10 THU	14:00 14:00 14:30
11 FRI	夜間開館(20:00まで) イブニング・レクチャー「拓本の世界」 18:00 表慶館対話の間*4 14:30
12 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
13 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30
14 MON	休館日
15 TUE	列品解説「屏風」14:00 表慶館対話の間
16 WED	14:00 14:30
17 THU	14:00
18 FRI	夜間開館(20:00まで) 国際博物館の日(平常展無料観覧日) 15:00
19 SAT	時間延長(18:00まで) 国際博物館の日記念講演会「世界の文化遺産: その保存と活用」 13:30 平成館大講堂 「親子で拓本に挑戦」13:00 表慶館創作の間*5 13:30 14:00 15:00
20 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:00
21 MON	休館日
22 TUE	列品解説「所蔵品の情報を管理する」14:00 表慶館対話の間
23 WED	14:00 14:30 14:00
24 THU	14:00 14:30
25 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00
26 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
27 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:00 14:30 13:30
28 MON	休館日
29 TUE	列品解説「ライオン、東博の銅像に迫る」表慶館対話の間
30 WED	14:00 14:30
31 THU	14:00

- = ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所: 本館1階エントランス
- = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所: 本館1階エントランス
- = ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所: 本館1階エントランス
- = ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所: 本館1階エントランス
- = ボランティアによる樹木ツアー、集合場所: 本館1階エントランス
- = ボランティアによる考古展示室ガイド、場所: 平成館考古展示室入口
- = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、場所: 法隆寺宝物館1階エントランス
- = ボランティアによる応挙館茶会、集合場所: 本館1階エントランス (参加費500円、先着30名、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
- = ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所: 本館1階エントランス (先着20名、開始1時間前に本館1階で整理券配布)

- 6/17まで 7/1まで 6/3まで
- = ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所: 本館1階エントランス
 - = ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ (勾玉づくりコース、事前申し込み制(当館ホームページをご覧ください)、先着10名)
 - = ボランティアによる桜と作品ガイド「博物館でお花見」、集合場所: 本館1階エントランス
- *1は有料イベントです、詳細は本誌4-5ページをご覧ください
 *2事前申し込み制、詳細は本誌4-5ページをご覧ください
 *3事前申し込み制、詳細は本誌14ページをご覧ください
 *4事前申し込み制、詳細は本誌6ページをご覧ください
 *5事前申し込み制、詳細は本誌6ページをご覧ください
 *上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
 *屋外で実施するツアー・ガイドは荒天の場合中止することがあります。